

第3章

社会の理解

1 生活と福祉

【重要語句】	
<input type="checkbox"/> 核家族	<input type="checkbox"/> 限界集落
<input type="checkbox"/> 拡大家族	<input type="checkbox"/> 合計特殊出生率
<input type="checkbox"/> ライフサイクル	<input type="checkbox"/> ワークライフバランス
<input type="checkbox"/> ライフステージ	<input type="checkbox"/> 地域包括ケアシステム
<input type="checkbox"/> コミュニティ	<input type="checkbox"/> 地域共生社会
<input type="checkbox"/> 過疎化	

社会の基礎的集団として「家族」があります。ここでは、家族についての理解を深め、福祉の視点からみた社会にも触れていきます。

ア 家族

(1) 家族の概念

家族とは配偶関係、血縁関係をもとにして成立する集団です。

(2) 家族の分類

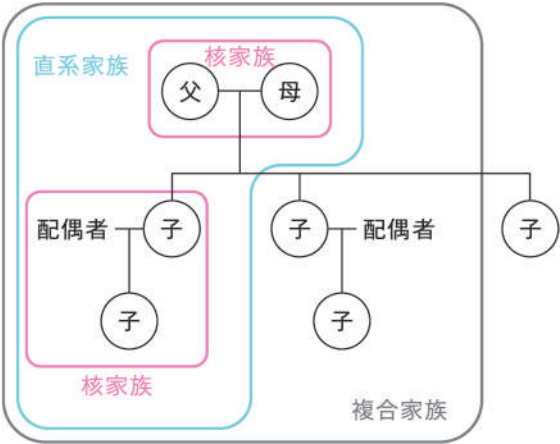
◆子供の視点から見た分類（形態）

定位家族	自分が生まれ育った家族
生殖家族	結婚して親元を離れ、新たに自らを中心とした家族

◆家族構成からの分類（形態）

核家族	家族の基本的な単位。 下記のいずれかで構成される家族形態を指す。 <ul style="list-style-type: none">・夫婦のみ・夫婦と未婚の子・ひとり親と未婚の子
拡大家族	親子関係にある複数の核家族が同居する家族。 拡大家族は下記2つに分類できる。 <ul style="list-style-type: none">・直系家族…拡大家族のうち、親と1人の既婚の子供とその配偶者や子供と暮らす・複合家族…拡大家族のうち、親と複数の既婚の子供とその配偶者や子供と暮らす

◆拡大家族



(3) 制度としての家族

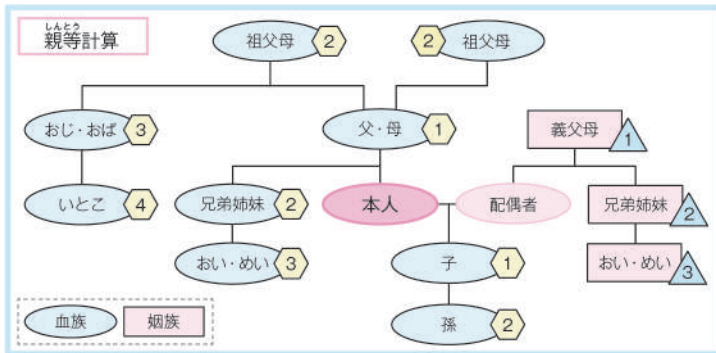
日本の民法では家族の扶養義務（※１）を定めています。

直系血族（※２）、兄弟姉妹はお互い扶養する義務があります。

三親等内の親族も扶養に義務が発生することがあります。

※１ 扶養義務…相互に背負っている生活保障の義務です。

※２ 直系血族…自分の祖父母、父母、子、孫などです。



民法での親族は、6親等内の血族、配偶者、3親等内の姻族（婚姻によって出来た親族）をいいます。

(4) 世帯

世帯は、国政調査や家計調査などの国の調査、住民登録などの行政上の手続で用いられます。

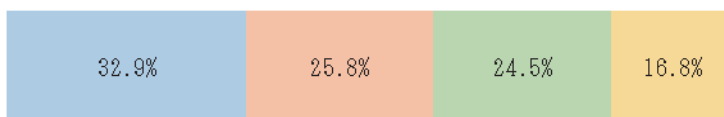
住居と家計をともししている人々の集団をいいます。そのため、経済的な扶養があっても別居している場合（単身赴任など）は当てはまりませんが、血縁関係がない同居人は含まれることもあります。

① 世帯構造

「世帯構造」は、次の分類によります。

①単独世帯	世帯員が一人だけの世帯をいう。
②核家族世帯	・ 夫婦のみの世帯 ・ 夫婦と未婚の子のみの世帯 ・ ひとり親（父親又は母親）と未婚の子のみの世帯
③三世代世帯	世帯主を中心とした直系三世代以上の世帯をいう。 （祖父母世代、親世代、子供世代で構成される世帯）
④その他の世帯	上記①～③以外の世帯をいう。

◆世帯構成で多い順（全体を100%とする）



■ 単独世帯

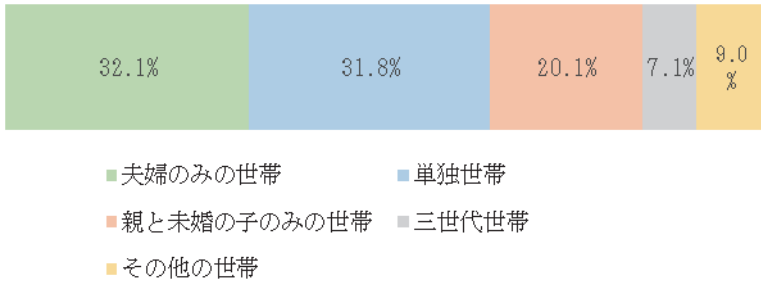
■ 夫婦と未婚の子のみの世帯

■ 夫婦のみの世帯

■ ひとり親と未婚の子のみの世帯、三世代世帯、その他の世帯の合計

このうち、65 歳以上の高齢者がいる世帯は 2022 年時点で約 51% となっています。

◆65歳以上の高齢者がいる世帯の内訳（全体を100%とする）

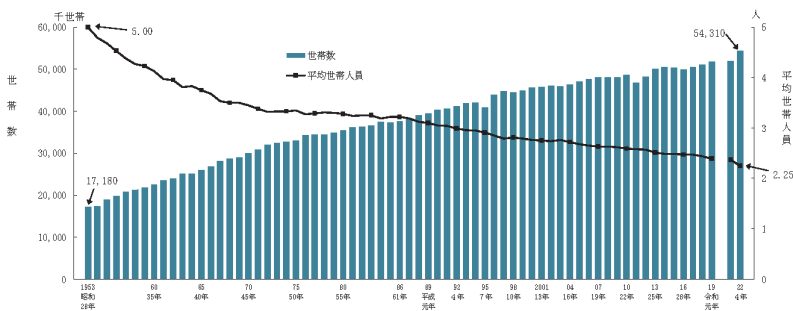


65歳以上の高齢者がいる世帯の内訳で、高齢者のみの世帯が半数を超えます。（参考：厚生労働省「国民生活基礎調査」2022（令和4年））

② 平均世帯人員数

厚生労働省『2022（令和4年）国民生活基礎調査の概況』（2022（令和4年））によると、平均世帯人員数は、2.25人であり、1950（昭和25）年代と比較するとほぼ半数です。

◆平均世帯人員数の推移



注：1) 1955（昭和30）年の数値は、広島県を除いたものである。
 2) 2011（平成23）年の数値は、岩手県、宮城県及び福島県を除いたものである。
 3) 2012（平成24）年の数値は、福島県を除いたものである。
 4) 2016（平成28）年の数値は、熊本県を除いたものである。
 5) 2020（令和2）年は、調査を実施していない。

引用：厚生労働省「2022（令和4年）国民生活基礎調査の概要」

(5) 人の一生についての考え方

ライフサイクル	誕生から死までの生涯にわたり、同一世代間での共通の生活の変化のパターンのことをいう。
ライフステージ	乳幼児期、小学校入学、思春期、成人、就職、結婚、出産、壮年、定年、老年といった、1つ1つの発達段階。
ライフコース	生まれてから死ぬまでの個々人それぞれの人生の軌道のことで、多様な人生の在り方を捉える概念。

離婚率、生涯未婚率の増加、再婚や事実婚により、血縁関係のない親と子が家族になるステップファミリーの増加などにより家族観も多様化しています。

そのため、人の一生の考え方も、それぞれのライフステージを経るライフサイクルに個人を当てはめるのではなく、多様な人生の在り方を捉える概念であるライフコースが現在の主流の考え方です。

イ 地域

(1) コミュニティ

アメリカの社会学者のマッキーバーがコミュニティを学問的にとらえました。

- ・コミュニティ…同じ地域に住み、同じようなライフスタイルで暮らし、「われわれ感情」を共有している集団と定義されています。地域社会とも呼ばれます。

例) 町内会・自治会(町・丁目・番地などの行政区分で形成される近隣住民の組織)

(2) 都市化と過疎化

① 都市化

都市化とは、都市特有の生活様式や生活態度が、人口の集中した都市から、地域社会へ浸透していく過程のことをいいます。IT 技術で地